

## 佐渡汽船(株)乗船ターミナルに、 新たな“情報表示システム”と“多機能型自動券売機”を導入！

海事部 海事産業課

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、平成20年5月に設立された「佐渡航路活性化協議会（会長：高野宏一郎佐渡市長）」では、佐渡航路における利便性の向上と顧客サービスの拡充を図るため、当局も参画して乗船券予約システムの刷新を図るなどの「乗船スマート化事業」について検討を重ねてきました。

この度、地域公共交通活性化・再生総合事業として、佐渡汽船(株)の新潟港・両津港・小木港の各旅客ターミナルに、新たな“情報表示システム”と“多機能型自動券売機”を設置し、4月1日に、当局より後藤靖子局長並びに糸岡正明海事部長が出席して「運用開始式」が開催されました。



テープカットとくす玉割り

今回導入された“情報表示システム”は、文字情報だけだった従来の表示板を大型モニターに入れ替え、船舶の出航時刻や運航状況、佐渡の観光やイベント情報を画像で表示・紹介できるようにしたものです。

また、タッチパネル式の“多機能型自動券売機”は、これまでの“券売機”では2等席のみの発券であったものを、1等席やジェットfoil指定席の発券と、各種カード対応の機能等を備えた最新型のものになりました。（※1）

式では、後藤局長の挨拶の後、局長らによるテープカットと部長によるくす玉割り、新型券売機による発券が行われ、盛大な拍手のもと第1号の切符が無事発券されました。

佐渡島から民謡団体「両津しぐれ会」の参加もあり、「佐渡おけさ」や「相川音頭」などの踊りが、歌・三味線・太鼓とともに披露され、大変華やかな式となりました。



佐渡おけさ

佐渡への観光客は、平成3年の121万人をピークに減少が続いており、21年は60万人にまで半減しています。

佐渡航路活性化協議会では、今回の“情報表示システム”等の導入を皮切りに、当局も積極的に「乗船券予約システムの自動化」や「自動改札機」の導入等にも取り組み、さらなる利用者利便の向上と拡充により、佐渡航路の一層の活性化と、佐渡

への観光客の増加につなげたいとしています。

これを機に多くの皆さんが、明るく便利になった佐渡汽船の旅客ターミナルを利用し、ジェットfoilやカーフェリーを使って、“朱鷺のいる島”佐渡へ行かれることを期待しています。

（※1）当面は、カーフェリーの2等乗船券のみの発券となります。



多機能型自動券売機